科目名:人間文化特論	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:土曜日5限。1年生は必修科目となりますが、本年度土曜日受講が無理な人は申告してください。教員の担当順序に変更があります		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
人間文化研究科のアドミッション・ポリシーである複雑・多様で不透明な現代社会を切り開くための専門的知識および知性と理性を備えた、創造力豊かな高度職業人の養成を目指す科目である。人間文化・地域文化の学際的理解とその研究における方法論を理解した上で、独自の研究成果をプレゼンテーションできる汎用的な思考力を習得するための科目である。

授業の到達目標
①人間文化の多様性を知り、その方法論を理解することができる
②方法論に則った研究計画をたてることができる
③発表技術を獲得することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
第15回目の授業での発表に向けて、人間文化特論の授業内容をふまえ、受講生は各々で「自身の研究内容と研究方法」についてレジュメを作成し、発表への準備学修を行う。

評価方法
①人間文化の多様性から自身の問題意識を獲得できたか。②問題意識に基づく独自の研究内容と方法を明確にできたか。③学術的な方法で他者に分かりやすく伝えることができたか。①から③を最終回の研究計画発表において、総合的に判断し、講評することでフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、指示する。	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問・相談は担当者の金子（t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp)、嶋守（shimamori@ohkagakuen-u.ac.jp）に行うこと。

01	教育学の研究と方法（金子）
02	社会学の研究と方法（嶋守）
03	保健学の研究と方法（木村）
04	言語学の研究と方法（都）
05	食科学の研究と方法（辻岡）
06	英語学の研究と方法（内田）
07	歴史学の研究と方法（布和）
08	心理学の研究と方法（小原）
09	文学の研究と方法：フィールドワークを含む（太田）
10	観光研究の諸相（辻）
11	アメリカ文学の研究と方法（小林）
12	造形学の研究と方法（淺野）
13	英語教育の方法と周辺領域の関係（石渡）
14	社会福祉学の研究と方法（柏倉）
15	第15回　発表会（金子・嶋守）
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

科目名:課題研究Ⅰ～Ⅳ	担当者:各担当	開講学科等	大学院共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	
		配当学年	
受講者制限:本年度遠隔授業対応科目かについては、各担当者の判断による		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　１．指導教員からの指導の下、修士論文の研究テーマについての考察を展開する。　２．受講生自身が情報を集め考察し整理した内容を、教員に報告し討論する。その結果をもとにして、さらに次の考察の展開を進めて行く。３．年間２回行うチーム指導での検討結果の振り返りも取り入れて行く。一般院生と長期履修生とでは開講学年が異なります。配当学年は、一般院生の場合、Ⅰ・Ⅱが１年前期・後期。Ⅲ・Ⅳが２年前期・後期。長期履修生の場合は、Ⅰ・Ⅱが２年前期・後期。Ⅲ・Ⅳが３年前期・後期となります。

授業の到達目標
課題研究Ⅰ：①課題意識を明確にし、②先行研究の整理、③方法論の検討に着手する。課題研究Ⅱ：①先行研究の整理が完了し、②方法論を確立し、③研究テーマを確定する。課題研究Ⅲ：①研究テーマに関する資料の検討（調査の実施を含む）に着手し、②研究成果の見通しが見え始めている。課題研究Ⅳ：研究テーマに関する資料や調査結果から結論を導き出せている。これらの過程で、専門知識、汎用的思考力を身につける（大学院人間科学専攻DP）。専門知識、語学能力、汎用的思考力を身につける（大学院地域文化専攻DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の報告に際して、事前学修３時間以上、事後学修１時間以上が必要になります。

評価方法
授業時の報告の内容（70点）、意見交換の際の発言の内容（30点）、ルーブリックにある「学修成果としての能力（到達目標）」に照らして、合計100点満点で評価します。報告内容、発言内容については、毎回、教員からの意見・問いかけ・助言・指示等で応答します。

教科書	参考図書
各授業において指示します。	適宜、指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当者の連絡先や相談時間等は、初回授業で案内します。

01	ガイダンス：受講生の研究テーマ・方法論等に合わせた、半期の研究について
01	ガイダンス：受講生の研究テーマ・方法論等に合わせた、半期の研究について
02	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（１）
02	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（１）
03	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（２）
03	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（２）
04	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（３）
04	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（３）
05	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（４）
05	研究活動１：半期の第一段階の研究についての報告と検討（４）
06	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（１）
06	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（１）
07	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（２）
07	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（２）
08	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（３）
08	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（３）
09	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（４）
09	研究活動２：半期の第二段階の研究についての報告と検討（４）
10	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（１）
10	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（１）
11	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（２）
11	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（２）
12	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（３）
12	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（３）
13	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（４）
13	研究活動３：半期の第三段階の研究についての報告と検討（４）
14	チーム指導での報告と検討を踏まえた振返り
14	チーム指導での報告と検討を踏まえた振返り
15	半期の研究の振り返りから明らかになった課題についての考察
15	半期の研究の振り返りから明らかになった課題についての考察

16	なし
16	なし